熊谷市
記者クラブ取材情報

令和7年10月30日発表
担当課：熊谷市教育委員会
社会教育課

タイトル

令和7年度　熊谷市文化功労者・教育関係職員表彰式

1．日時　令和７年１１月３日（月・祝日）　１０時００分　開式

2．場所　熊谷市立大里生涯学習センター　あすねっと

3．事業概要

＜事業内容＞
【式典】
・文化功労者３名　赤沼　昇　氏（体育　７６歳）
　坂田　博　氏（学校教育　９３歳）
　野原　晃　氏（学校教育　７８歳）

・教育関係職員表彰者１５名（学校教職員１４名、学校医１名）

＜目的＞
・文化功労者：教育・学術・文化・体育の振興について特に功績が顕著である方を表彰する。
・教育関係職員表彰：熊谷市内在勤１５年以上で勤務成績が良好である者を表彰する。

＜影響・効果＞
文化芸術及び教育活動を行っている方々の励みになり、各分野の振興に資することになる。

4．特徴やPRポイント

5．その他

＜主催者＞
熊谷市教育委員会
代表者　渋谷　昌美
＜連絡先＞
０４８－５２４－１１１１　内線（３９４）

※ 資料の有無（ 有 ・ 無 ）　※市HPの掲載（ 有 ・ 無 ）

担当者　熊谷市教育委員会社会教育課　後上
連絡先　ＴＥＬ　０４８－５２４－１１１１内線（３９４）shakaikyoiku@city.kumagaya.lg.jp

熊谷市文化功労者

赤沼（あかぬま）　昇（のぼる）　氏　（７６歳）

熊谷市河原町

氏は、公益財団法人熊谷市スポーツ協会の要職を務め、一貫してスポーツの普及発展に貢献されました。

熊谷さくらマラソン大会では第１回から役員として参加し、現在も実行委員会副会長として大会運営に尽力され、令和元年には全国ランニング大会１００選に選ばれる人気大会となりました。加えて、熊谷市陸上競技協会副会長として、全国から長距離ランナーが集う「チャレンジ熊谷」や「熊谷市春季陸上記録会」等を公認大会として開催し、陸上競技の普及発展に寄与されています。

彩の国まごころ国体では、熊谷市実行委員会専門委員として、小学生の鼓笛隊や中学生のマスゲームの指導など、開会式閉会式の進行に努められました。

また、熊谷市中学校体育連盟会長、部活動地域連携検討委員会委員として、部活動や大会の在り方について検討し、時代の変化に対応しながら生徒にとり望ましい部活動を目指して実証を進めておられます。

さらに、公益財団法人熊谷市スポーツ協会専務理事として、幅広い世代が気軽にスポーツに参加できるよう、２１種目４０のスポーツ教室を開催し、生涯にわたるスポーツ環境の充実を図りました。

長年の功績により、令和７年２月に埼玉県スポーツ協会１００周年記念表彰、同年１０月には文部科学大臣表彰を受賞されております。

このように、スポーツの振興、発展に尽力し、市民の健全な心身の発達と、健康で明るい市民生活の実現に寄与された功績は誠に顕著であります。

熊谷市文化功労者

坂田（さかた）　博（ひろし）　氏　（９３歳）

熊谷市本町

氏は、５０年もの長きにわたり、９校の小・中学校、高等学校の学校薬剤師を務められました。また、学校給食センターの学校薬剤師としてもご活躍され、学校の環境衛生の維持・改善に尽力されました。

各校で学校保健計画の策定に参画し、薬剤師としての専門的立場から指導助言を行い、学校保健活動に積極的に取り組まれたほか、学校衛生環境に関する検査や、改善のためのアドバイスや指導をまとめた「学校環境衛生のしおり」を作成されました。このしおりは、今日でも学校薬剤師へ配布され活用されています。

「薬と健康の週間」では、薬に関する知識を啓発するパンフレットの配布や相談会を実施しました。また、高齢者向けの服薬指導講習会も開催し、薬の誤飲防止に力を尽くされました。

昭和６０年には、熊谷市薬剤師会会長、平成１２年には社団法人埼玉県薬剤師会副会長に就任し、地域の保健衛生の向上に多大な貢献をされました。

さらに、埼玉県薬物乱用防止対策推進本部委員として、県と共同で、「薬物乱用防止啓発ポスターコンクール」を実施し、選考委員を務めるなど薬物乱用防止活動にも寄与されました。

こうした長年の功績が認められ、平成１２年には文部科学大臣学校保健功労表彰、同２３年には薬事功労者厚生労働大臣表彰を受賞、同２７年には旭日双光章の栄誉に浴されています。

このように、保健と公衆衛生の向上、社会福祉の増進に寄与された功績は誠に顕著であります。

熊谷市文化功労者

野原（のはら）　晃（あきら）　氏　（７８歳）

熊谷市太井

氏は、半世紀を超える長きにわたり、常に人間尊重の理念をもって教育一筋に多大な功績を残されました。

市内中学校の校長として、常に生徒主体の活気と魅力のあふれる学校経営を行うとともに、二学期制の先行実施などにより県内はもとより県内外の教育行政に大きな影響を与えました。

１９有余年の教育長の在任中は、「熊谷の子どもたちは、これができます！『４つの実践』と『３減運動』」を提唱し、その考え方を浸透させ、この取組は平成２８年度に文部科学大臣賞を受賞しました。

学校教育においては、英語科の授業における「ラウンドシステム」の考え方を全教科で導入し、「知力・徳力・体力のバランスのとれた学力日本一」を実現しました。

社会教育の分野では、妻沼聖天山歓喜院聖天堂の国宝指定に向けた活動などを通じて、文化財の保護・継承に貢献されました。また、スポーツ・文化村「くまぴあ」を整備し、あらゆる世代の市民が文化やスポーツに親しめる生涯学習の場を提供したほか、人権教育にも力を尽くされるなど、多岐にわたり指導力を発揮されました。

さらに、埼玉県都市教育長協議会会長に就任し県内の教育長のリーダーとしてご活躍され、関東地区及び全国都市教育長協議会の要職、文部科学省のいじめ防止基本方針策定協議会委員等も歴任し、平成２６年には文部科学大臣より地方教育行政功労者表彰を受けられました

このように、氏が卓越した指導力により、広く教育の発展充実に貢献された功績は誠に顕著であります。